記者発表資料

平成２６年６月１６日
秋　田　県
仙　北　市
湯沢河川国道事務所

「供養佛沢砂防堰堤完成式」を挙行
～国直轄により早期完成～

秋田県仙北市田沢湖田沢供養佛地内において、平成２５年８月９日豪雨により発生した土砂災害に伴い、再度災害防止を目的に、これまで工事を進めて参りました「供養佛沢砂防堰堤」がこの度完成します。
つきましては、以下のとおり完成式典を挙行しますのでお知らせします。

【式典概要】

1．開催日時：平成26年6月29日（日）11:00～11:40

2．開催場所：秋田県仙北市田沢湖田沢字供養佛地内（別添資料参照）

3．主　　催：秋田県、仙北市、国土交通省湯沢河川国道事務所

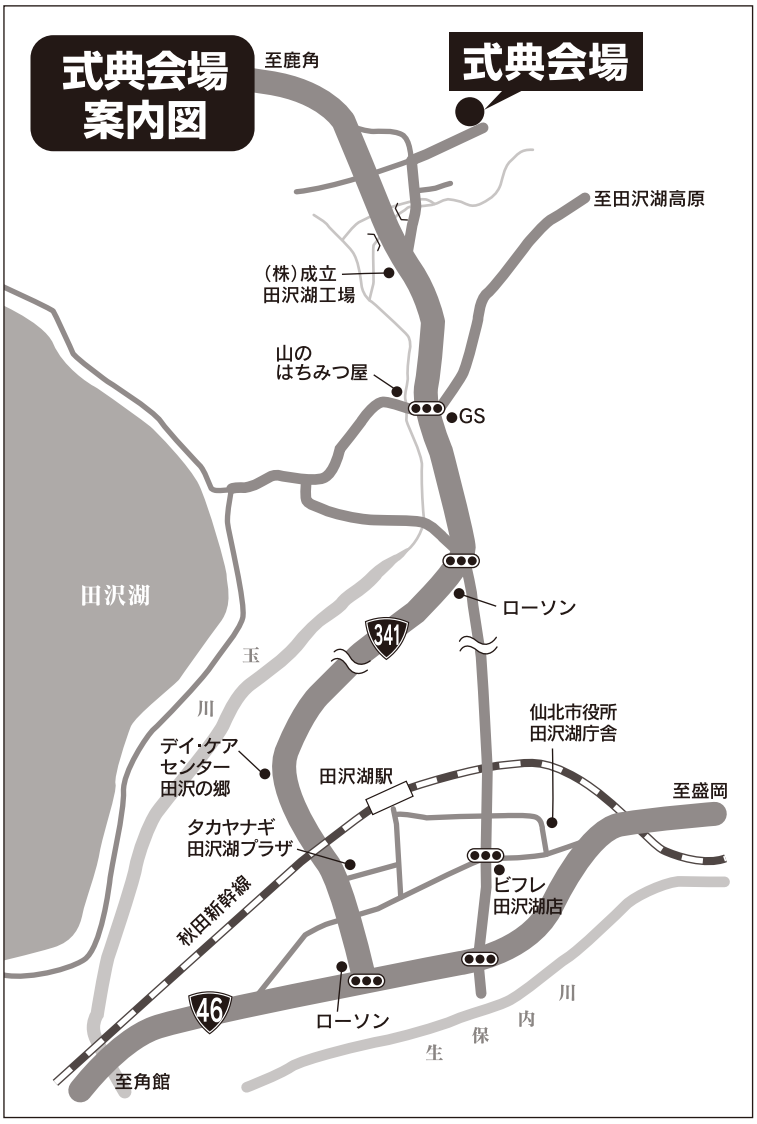
4．案 内 等：別添資料のとおり

※天候等により、式典が中止となることもあります（小雨決行）

湯沢河川国道事務所ＨＰURL（http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/）

※発表記者会：秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲・湯沢・角館支局

□問い合わせ先
秋田県建設部河川砂防課
電話 018-860-2511（調整・企画管理班直通）
主幹(兼)調整・企画管理班長　酒井（さかい）　不二彦（ふじひこ）
仙北市建設部建設課
電話 0187-43-2294（建設課直通）
建設課長　佐藤（さとう）　龍喜（りゅうき）
○国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
電話 0183-73-5544（調査第一課直通）
副所長（河川・砂防担当）　佐藤（さとう）　徳男（のりお）（内線204）
調査第一課長　林（はやし）　将宏（まさひろ）（内線351）


式典会場
案内図
至鹿角
式典会場
至田沢湖高原
(株)成立
田沢湖工場
山の
はちみつ屋
GS
田沢湖
ローソン
341
玉
川
仙北市役所
田沢湖庁舎
デイ・ケア
センター
田沢の郷
田沢湖駅
至盛岡
タカヤナギ
田沢湖プラザ
ビフレ
田沢湖店
秋田新幹線
46
ローソン
川
内
保
生
至角館

秋田県仙北市供養佛地区における大規模土砂災害への対応

国土交通省

秋田県仙北市田沢湖田沢供養佛地区において、平成25年8月9日の豪雨により発生した土石流に対して、緊急的に砂防堰堤の整備を実施。（災害関連緊急事業費：約4．3億円） 平成26年6月内までの完成を目指し、鋭意施工中。





■災害概況

発災日時：平成25年8月9日

被害状況：死者6名、負傷者2名
人家6棟全半壊

■対策概要

砂防堰堤1基

■保全対象

人家37戸、市道2線


家屋の被災状況

災害直後


土石流発生状況



全景(H25.8.10)

※本資料の写真等のデータ提供は可能です

◆災害発生から工事実施までの経過

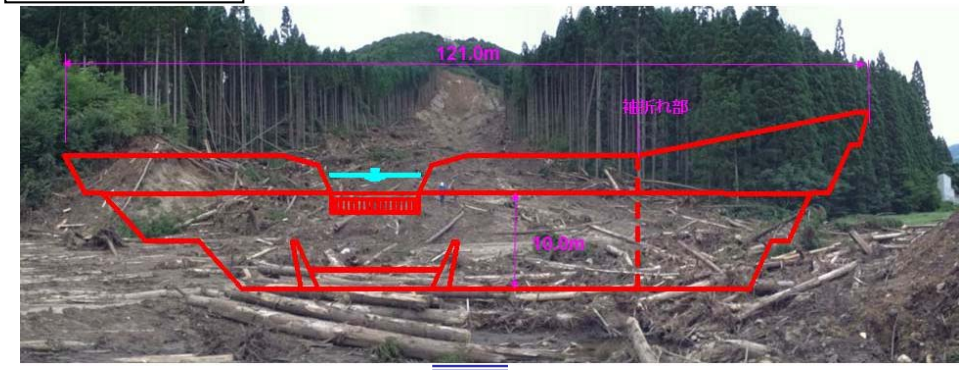
日　時	内　容
平成25年　8/9	災害発生
8/10	国土交通省国土技術政策総合研究所による現地調査の実施 （仙北市長へ調査結果の説明、記者会見）
8/15	土石流警戒避難に関する情報連絡会（第1回）
8/20～9/2	秋田県による応急対策工事の実施
9/19	緊急工事に関する地元説明会の開催
10/1	砂防堰堤の緊急工事に着手
12/3	砂防堰堤本体のコンクリート打設開始
平成25年 12/30～ 平成26年 3/9	積雪のため工事一時休止
5/30	主堰堤のコンクリート打設完了
6月末	前庭保護工の施工完了（予定）


関係機関による情報連絡会と記者会見の模様(H25.8.15)

供養佛沢砂防堰堤の概要と効果

国土交通省

砂防堰堤着手前



砂防堰堤整備状況
（H26.5.30）


砂防堰堤正面を下流側から撮影


砂防堰堤上流側を左岸側から撮影

■施設による効果

崩壊地に残存する不安定な土砂や流木が、降雨により再び流出した場合でも、全量を砂防堰堤で捕捉することが可能。

■砂防堰堤諸元

堤高：10m 【不透過部（コンクリート）8m、透過部（鋼製）2m】

堤長：121m

■保全対象

人家37戸、市道2線

■施設効果量

整備土砂量：9,569m3 ➡ 概ね4tトラックで約300台分の量

整備流木量：　108m3 ➡ 概ね長さ7m、直径0.25mの流木670本分

■今後の予定

砂防堰堤上部の崩壊斜面における法面対策工事、及び砂防堰堤下流における水路の整備工事を、平成26年積雪期までに実施する予定。



崩壊地、保全対象、砂防堰堤を上空から撮影(H26.6.4)

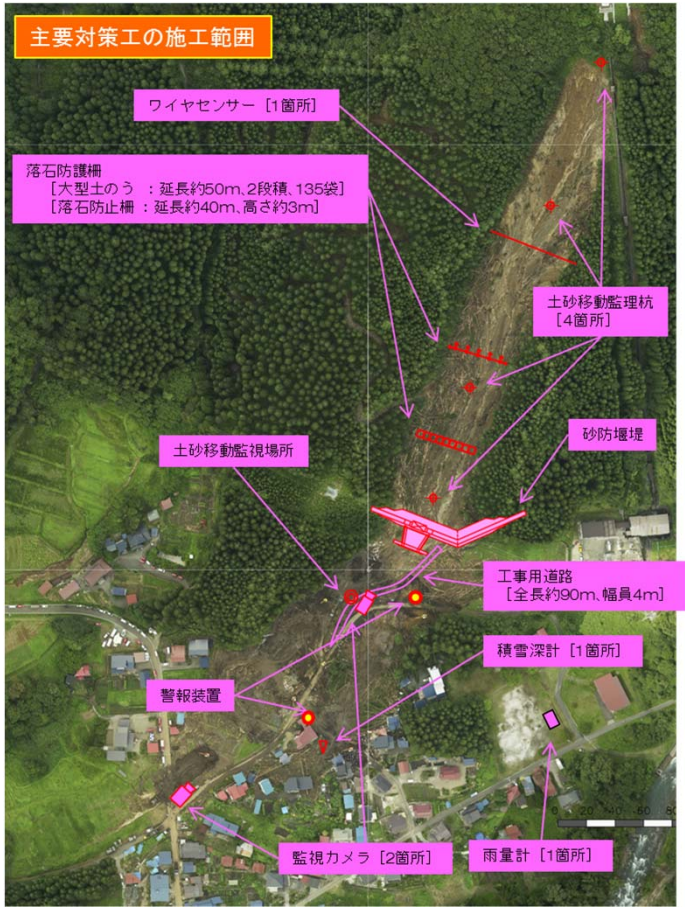
供養佛沢砂防堰堤工事における特徴

国土交通省

◆工事の安全管理の取り組み

不安定な土砂が残存する崩壊斜面直下での工事となることから、二次災害が発生しないよう安全管理には万全を期した。

①雨量計の設置・観測
②ワイヤーセンサーの設置による土砂流出の監視（警報装置設置）
③土砂移動監理杭の設置による土砂移動の観測（1日3回）
④監視カメラの設置・監視
⑤冬期間における積雪計の設置・監視
⑥落石防止のための大型土のう、防護柵の設置
⑦工事の安全管理基準の設定（①と③による）



◆早期完成に向けた取り組み

再び土砂と倒木が流出することが懸念されたことから、地域の安心・安全の確保には早期の工事着手・完成が急務であり、調査測量や設計、工事の工期短縮に最大限努力した。

①調査着手から約１ヶ月の短期間で、工事内容の地元説明会開催
　※調査着手8月２３日、地元説明会開催9月19日
②施工方法の工夫
③冬期間においても、可能な範囲で作業用除雪を行い工事を進捗

～工事着手から主堰堤完成まで約６ヶ月で実施～
（積雪による一時中止期間を除く）



工事に係る地元説明会（H25.9.19）



施工状況